

2015年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築・デザイン演習Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	建築工学コース:必修、建築コース:必修、デザインコース:必修						
担当者	小池博・飯田一博・佐野正樹						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築空間表現のための基礎的な能力を修得する。(A7) ・建築空間の構想から設計までの問題発見と、スケッチ、図面、模型などの基礎的表現法を身に付ける。(B6) ・自らの構想を表現手法をとおして展開していく基礎的な能力を修得する。(A6) 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、演習課題発表 演習課題01：建築・デザインのための表現手法を学ぶ その1 スケッチと寸法習作</p> <p>第2回：演習課題01提出・演習課題02発表：建築・デザインのための表現手法を学ぶ その2 建築図面と模型の製作『配置図・平面図』</p> <p>第3回：演習課題02：『断面図・立面図』</p> <p>第4回：演習課題02：『アクソメ図』</p> <p>第5回：演習課題02：『模型制作・模型写真撮影』</p> <p>第6回：演習課題02提出 設計課題発表：町屋の空間計画～店舗付き2階建て住宅の設計</p> <p>第7回：設計課題：『空間イメージ・コンセプト』</p> <p>第8回：設計課題：『スタディ模型 その1』</p> <p>第9回：設計課題：『スタディ模型 その2』</p> <p>第10回：設計課題：『平面図・断面図』のエスキス</p> <p>第11回：中間発表</p> <p>第12回：設計課題：『平面図・断面図』の作図</p> <p>第13回：設計課題：『最終模型』の製作</p> <p>第14回：設計課題：『模型写真撮影・アクソメ図』</p> <p>第15回：設計課題提出 & 最終プレゼンテーション</p>						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習		70% 20%	実技 部外評価 プレゼンテーション 計		10% 100%	
授業到達目標の達成度	履修登録者98名のうち、87名が合格し、合格率は89%であった。不合格となった10名のうち、8名は過年度履修生であった。本科目は1年次の必修科目であり、過年度履修で不合格は即、留年となる。一方で現役の1年生での不合格は3名であった。その3名に関してはいずれも出席はある程度しているが、課題が未提出であった。出席率も高く、課題をすべて提出した学生は今年度は全員合格しており、概ね目標は達成できた。						
反省点	授業中に行なった作業を見た限りであるが、これまでで最も個人のレベルに差が大きく見られた学年だった。そのレベルも、スキルに依存するものではなく、モチベーションに依存しているように見受けられ、今後、課題が難しくなっていく状況で、やり通せるのか不安を覚えた学生も数名いた。同じ課題を同じように説明するだけでは、その差を埋めるのが難しいように思えた。						
来年度の計画	本科目を小池が担当し、今年度で丸三年が経過した。第1、第2、第3課題の趣旨は概ね機能していると判断できる。来年度は第2、第3課題で新課題を用意し、趣旨は変えずに課題を変えることで学生の教育効果にどのような変化が現れるのかを検証したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	専任1名、非常勤2名、TA2名という体制で臨んでいることへの高い評価が多かった。学生のレベルに大きな差があるため、初年度からできるだけワンツーマンで製図や模型の指導を行なうよう心がけていた成果が現れたと思われる。意外だったのは、これまでは「自由な反面、騒ぐ学生がいる」や「先生によって教える内容が違う」といった意見が聞かれたが、今年度は逆に、「集中できた」「たくさん先生がいて聞きやすかった」といったポジティブな評価しかなかった。ただ、課題の出来はそれほどでもないため、まともはこの意見を受け取ることはしない方が無難かと思われた。						
履修登録者数	98名	定期試験 受験者数	98名	合格者数	87名	合格率	89%